様式３

令和7年度　香南市保育所評価報告書

香南市立赤岡保育所

経営理念	【保育目標】 自分大好き・友だち大好き・あかおかっ子 【経営目標】 保護者とつながり、子どもにとって最もふさわしい生活の場としての最善を尽くす保育計画を目指す。 《子ども像》 ○話を聴く、話す力が身についた子ども　○好きなあそびを見つけて集中してあそぶ子ども　○ルールを理解し守る力が身についた子ども ○よりよい人間関係を作る力をもつ子ども　○五感を充分に使い、豊かな感性を身につけた子ども 《保育所像》 ○一人一人の子どもを大切にする保育所　○地域を理解し保護者とともに子育てをする保育所　○地域に愛される保育所 ○保・小・中・高の連携を大切にする保育所　○子どもの生活日課が確立される保育所 《保育士像》 ○子どもとの信頼関係を大切にする保育士　○保護者とのよりよい関係を築く保育士　○専門性の向上に努める保育士 ○チームワークを大切にする保育士

	中期経営目標	今年度の重点目標	評価項目		自己評価 達成状況	評価	保育所関係者評価 考察	評価	改善策等
保育・教育活動の充実	心が動く体験を通して、豊かな感性と表現する力を身につけた子どもの育成	子どもの心が動く環境づくり	①	子どもの感動を生む環境構成	○子どもの感動を生むための環境構成について視点を持って考えられたことはよかった。保育者が子どもの感動を引き出せた実感が得られなかったことが厳しい評価につながっていることもあり、子どもの姿や環境を捉える視点を学ぶ必要性がある。また、子どもが遊びを楽しむ姿はあったが目的を持って登所するまでには至らず、子どもの心情を読み取る力をつけると評価が変わったかもしれない。	C	○子どもは期待をもって登所できていた。またビオトープづくりなどでは先生の情熱を感じた。感動を含め、子どもにどんなことを経験させたいかを１週間のスパンで考え、計画に反映し、子どもを捉える力をつけるよう引き続き研鑽を積んでほしい。	B	○子どもの姿や心情を読み取る力は、保育士に必要なスキルである。日々の振り返りにおいて、子どもの姿から的確に心情を読み取ることを意識し、振り返りや考察する力を向上させていく。
			②	日々の振り返りと記録	○子どもの姿の読み取りを意識して記録することや、評価が適性にできるようになったことはよかった。環境と感動が生まれた場面を絡ませながら考察をすることやが難しかったと意見があったが、前の項目であったように感動を捉えることが難しかったことも要因であると考える。また環境構成が、足りないものを補う足し算のようになり、子どもの姿を予想して環境を準備することが難しかったという反省があり、子どもの興味関心・発達を捉えることも課題であると感じた。	C		B	
			③	室内外の環境構成や整理整頓	○捨てることが苦手だが、不要なものは処分するようにしたという職員や、率先して声かけを行う職員も出てきた。しかし、職員間で「不要なもの」「自分の管理する場所」の認識が違っており、評価はまばらであった。１年間かけて園内の環境の整理整頓を行ってきたものの、捨てても片づけてもまたいっぱいになることがある。職員の気づきを促しながら、子どもにとって必要なもの、数、配置などについて引き続き投げかけを行う必要がある。	B	○抜き打ち訓練で急遽迂回した時には、整理整頓がされていて避難の妨げになるものがなく、日頃の積み重ねが現れていた。職員で美化環境が保たれるための共有が必要だと思われる。	B	○職員にも視覚でわかるようにすることや、生活の中で子どもがどのように育っているかも含めて考えていくことも大事だと教わったので、職員間で共有して改善につなげる。
職員の育成・資質向上や運営	主体性を発揮する職員集団	問題点や課題に気づき、仲間と共有する職員集団づくり	①	豊かな人権感覚	○劇「どろぼうがっこう」について話し合ったことが、言葉、態度、保育を見直すきっかけとなり、新たな気づきを改善につなげるよう努めることができた。しかし人権感覚の鈍感さにより、問題意識をもつことが難しく評価が低くなったと思われる。人と話すことで気づきが生まれるが、時間を確保することも難しかった。	C	○大人がダメだと決めつけるのではなく、子どもの思いを大事にしながら、保育士がこだわりを持って話し合いをしたことがよかった。	B	○日常の中の人権に気づくことができるよう、職員の感性を磨く必要がある。話し合いを持つ時間を確保し、互いに人権感覚を磨いていきたい。
			②	避難訓練	○職員間で意見を出し合って改善し、訓練の方法や実践後の反省などを次回の訓練に活かすことができた実感が職員の高評価につながったと思う。保護者アンケートでも評価の言葉をいただいた。自分の気づきや反省を述べることはできたが、改善策や問題提起まではできなかったという意見が多かった。またパートさんを含めた訓練を重ねていくことも必要という意見もあり、このような評価となった。	B	○避難訓練は改善を意識してできており、職員の意識も高い。赤岡だけの職員ではなく行政も含め香南市全体で取り組む必要がある。	A	○他園とも避難訓練の内容を共有したり行政に参加を働きかけたりするなどし、引き続き質の向上に向けて取り組んでいく。またパート職員も経験が積み重なるよう計画に反映していく。
地域に開かれた園づくり	地域や保護者に愛される保育所運営	地域や保護者との関係づくり	①	積極的な働きかけを行い、地域・保護者に信頼される園	○赤岡小との連携、技研への遠足、市民館でのデイサービス参加など地域との連携を大切にできた。そういった取り組みを知らせ、ビオトープや竹の小屋づくり、運動会に協力をしてもらったことが、園への関心につながり、保護者アンケートはそう思う95%、ややそう思う５%となった。関係機関からの呼びかけには全力で応えてきたが、こちらからの積極的な働きかけということでは課題が残ったので次年度取り組んでいきたい。	A	○地域への発信の課題はあっても保護者からの評価を得ている。園が思う以上に発信ができていて信頼があるのではないか。	A	○自己評価でもあった自園からの発信の弱さについては組織として発信する機会を設け、地域と職員、子どもがつながることができるようにする。
			②	家庭との協力のもと早寝早起きの習慣が身についた子どもの育成	○給食の時に食材と排便を絡ませて話をしたり、〝うんちいく教室〟を行ったりと子どもの興味関心をひく取り組みができた。反面、うんちシールの取り組みが3年目となり、取り組みはマンネリ化してしまった。9時に体操を行い登園の動機づけとなるようにしたが、子どもが体操がしたいと思って登所できていたかという一番大事なところを見落としていたことも、評価の反省点であった。子どもに登所の目的があるか見直していきたい。	B	○家庭の実情は様々で求めすぎても生活しづらくなってしまうのではないか。一定成果が出ているのであれば、今の取り組みを継続していくことが大事だと思われる。	A	○取組のねらいと内容について保護者にわかりやすく知らせ、保護者にも意識をもって取り組んでもらえるようにしていく。

【評価基準】　A：十分満足(90%以上)　B：おおむね満足(70～90%)　C：もう少し努力すべき(50～70%)　D：大いに努力が必要(50%以下)